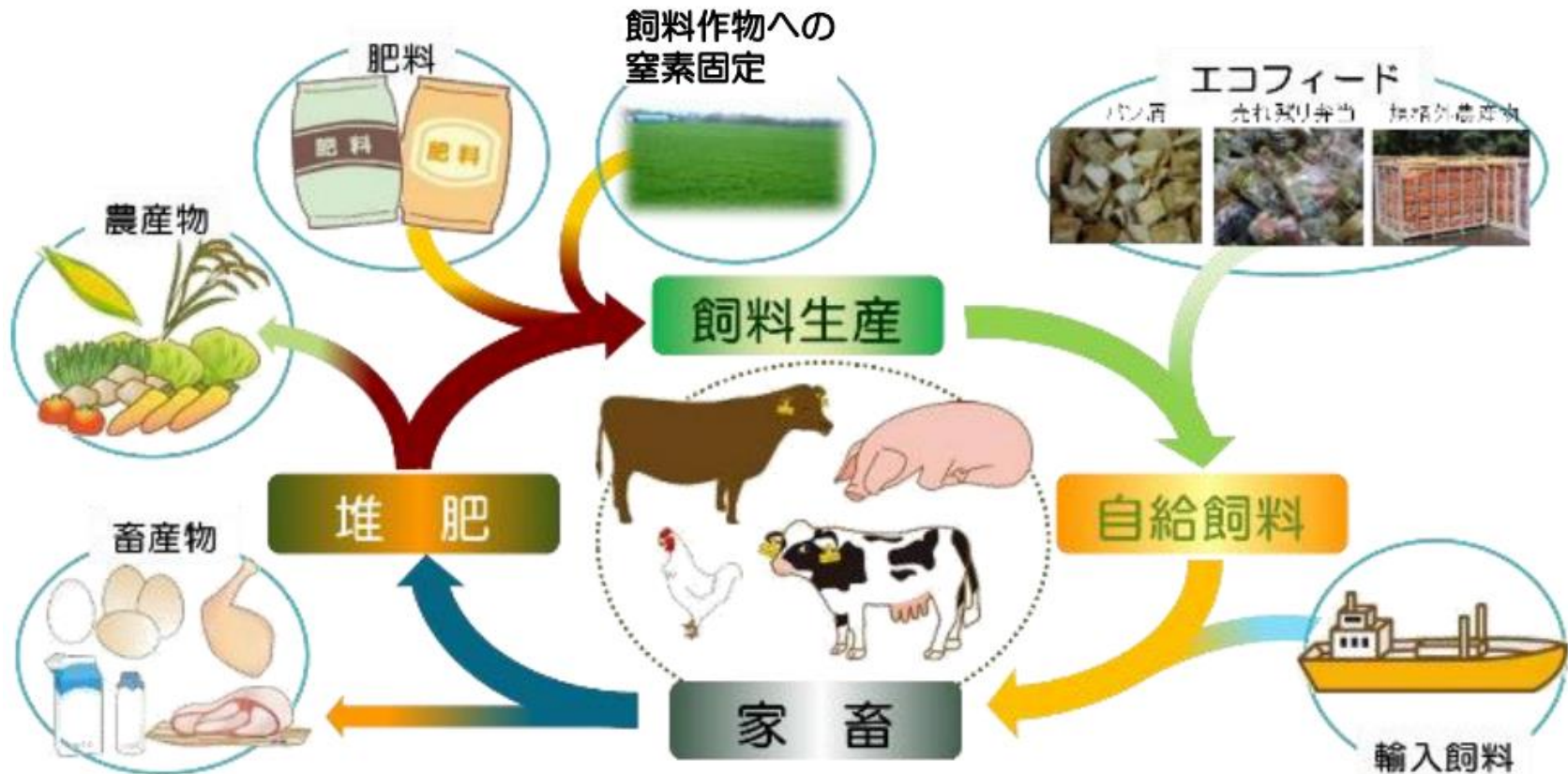


酪農が果たす役割

- 酪農は、耕種農業が困難な山間地・寒冷地など、条件不利な地域での草地利用や林間放牧による土地利用、荒廃農地の有効利用、景観の維持、地域の雇用創出など、農村地域の維持・活性化に貢献している。
- また、排出された牛糞が堆肥として活用されるなど、資源循環の一部を担っている（図1）。

図1 畜産の資源循環



酪農が果たす役割

- ウシは牧草や果物の皮など（食品製造副産物等）、ヒトが食べることのできない資源から食料を生産している（図2，表1）。
- また、子どもたちの教育の場としても貢献しており、体験の受入れや学校への講師派遣等を行う「酪農教育ファーム」の認証牧場は全国に261ある（令和3年度末時点）。

図2 乳牛の飼料の構成

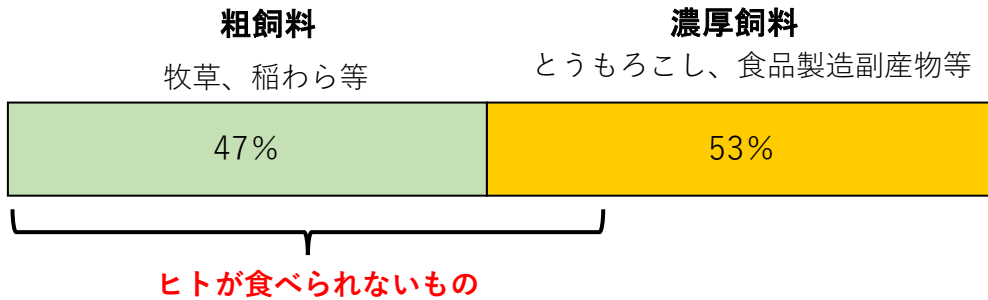


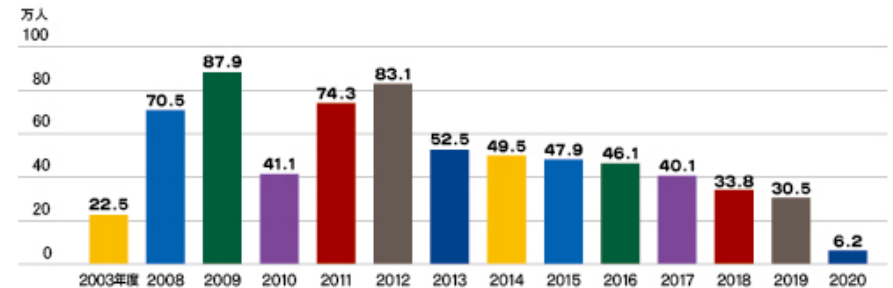
表1 食品製造副産物

主産物	食品製造副産物
カットフルーツ、缶詰 ジュース	パイナップル粕（芯や皮）、 リンゴジュース粕、ミカンジュース粕
植物油脂	大豆油粕、ナタネ油粕、アマニ粕、ヤシ粕
米、麦	米ぬか、フスマ
でんぷん、豆腐	でんぷん粕、豆腐粕
飲料	ビール粕、焼酎粕、酒粕、緑茶粕、麦茶粕、
調味料	醤油粕、味噌蓋
砂糖	バガス(サトウキビの搾り粕)、ビートパルプ(甜菜の搾り粕)
綿	綿実

図3 酪農教育ファームの体験者数

年間約6万人が体験（2020年度実績）

酪農教育ファーム認証牧場における2020年度の体験受入人数は、約6万人となっています。



出典：中央酪農会議ウェブサイト